

第3次浜松市子供読書活動推進計画(案) に対するご意見ありがとうございました

市民の皆さんからの提出意見と
その意見に対する市の考え方の公表



令和3年9月から10月にかけて実施しました第3次浜松市子供読書活動推進計画(案)に対する意見募集(パブリック・コメントの実施)に貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。

意見募集を行った結果、市民の皆様から64件のご意見が寄せられましたので、それらのご意見とご意見に対する市の考え方を公表いたします。

ご意見につきましては、項目ごとに整理し、適宜要約し掲載しております。

また、お寄せいただきましたご意見を考慮して、「第3次浜松市子供読書活動推進計画」を策定し、令和4年4月からの実施を予定しています。今後とも、浜松市立図書館に対するご理解とご協力をお願いいたします。

なお、この内容は、市ホームページ (<https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp>) にも掲載しております。

令和4年1月

浜松市市民部中央図書館

〒430-0947 浜松市中区松城町214-21

TEL 053-456-0234

FAX 053-453-2324

Eメールアドレス

chuo@city.hamamatsu.shizuoka.jp

募集結果

【実施時期】	令和3年9月15日から令和3年10月15日
【意見提出者数】	36人
【提出方法】	持参(0件) 郵便(1件) 電子メール(4件) FAX(0件) 説明会等(31件)
【意見数内訳】	64件 (提案 15件、要望 23件、質問 26件)
【案に対する反映度】	案の修正 16件 今後の参考 23件 盛り込み済 12件 その他 13件

目次

第1章	基本的な考え方	
1	はじめに (意見数 0件)	
2	計画の経緯 (意見数 0件)	
3	計画の対象 (意見数 1件)	2ページ
4	計画の期間 (意見数 2件)	2ページ
第2章	子供の読書活動をめぐる動き	
1	子供の読書活動を取り巻く社会情勢の変化 (意見数 0件)	
2	子供の読書環境における施策の動向 (意見数 1件)	2ページ
3	本市の状況 (意見数 5件)	4ページ
第3章	第2次推進計画期間における子供の読書活動の現状と課題	
1	子供の読書活動に関する取組の現状 (意見数 13件)	5ページ
2	本市の子供の読書活動の現状と課題 (意見数 11件)	8ページ
3	今後の方向性 (意見数 4件)	14ページ
第4章	浜松市の子供の読書活動の推進方策	
1	基本的な方向性 (意見数 0件)	
2	浜松市の目指す読書活動～構想図～ (意見数 2件)	15ページ
3	4つの目標と取組 (意見数 7件)	15ページ
4	一人一人の読書環境を支える取組 (意見数 3件)	17ページ
5	地域、図書館、学校等の連携による子供の読書活動の推進 (意見数 0件)	
6	推進・支援体制の整備等 (意見数 0件)	
参考資料	(意見数 2件)	17ページ
その他	(意見数 13件)	18ページ

第1章 基本的な考え方

3 計画の対象 (意見数1件)

質問 1	推進計画は最終的に行政側だけの物として捉えるのか。もっと子育て中の親子にもPRする事で、読書力向上につながるのではないか。
-----------------	---

【市の考え方】盛り込み済

計画案11ページ「3 計画の対象」にあるように、本計画は「子供の読書活動の推進にかかわる保護者をはじめ、教職員、市民ボランティア、行政担当者等」を対象としています。子供の成長を意識したつながりのある支援に向けて、本計画を多くの方に周知していきます。

4 計画の期間 (意見数2件)

質問 2	国、県に追随して市もその都度、計画を作っているのか。また計画の推移を見ていくと、5年ごとに見直している中で、あえて10年というのは長すぎるのではないか。
-----------------	--

【市の考え方】盛り込み済

「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、国が推進計画を策定し、その後、県や本市も計画を策定しています。計画案11ページ「4 計画の期間」に記載のとおり、計画期間10年間の中間年に見直しを図る予定です。

質問 3	計画の期間は令和4年度から令和13年度までの10年間とし、中間に見直しを行うとあるが、第1次計画、第2次計画の課題や成果は、どこかに記載はあるのか。
-----------------	--

【市の考え方】盛り込み済

第3章「2 本市の子供の読書活動の現状と課題」及び「参考資料」の「統計」に記載しています。

第2章 子供の読書活動をめぐる動き

2 子供の読書環境における施策の動向 (意見数1件)

提案 1	浜松市は自治体のSDGsの推進に資する取組を行っている。これを受けて第1章「基本的な考え方」に「図書館においてもサービスを通じてSDGsの様々な取組を支援する」などSDGsとの関係性を意識した活動としての文言が必要と考えられるがいかがか。
-----------------	---

【市の考え方】案の修正

ご意見を踏まえ、第2章「2 子供の読書環境における施策の動向」計画案15ページ及び第4章「1 基本的な方向性」計画案38ページに以下の項目を追加します。

《修正内容》

(修正前)

記載なし

(修正後) 計画案 15 ページ

「2 子供の読書環境における施策の動向」

(5) 浜松市 SDGs 未来都市計画

「平成 27 年 9 月の国連総会決議において持続可能な開発目標 (SDGs) が採択され、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を目指して 169 の関連ターゲットを伴う 17 の目標が定められました。本市においては、平成 27 年度から 30 年後 (一世代先) の浜松の理想の姿「1 ダースの未来」を描いた総合計画がスタートしており、経済・社会・環境の調和等を基調とした、SDGs の理念にも通ずる社会を描き、その実現に向けて取組を進めています。

読書活動の推進においても SDGs の理念に基づきながら取組を充実させるとともに、計画の推進が SDGs の達成に寄与することを目指します。」

《修正内容》

(修正前) 計画案 38 ページ

「1 基本的な方向性」

「そのためには、家庭・地域・図書館・学校等のそれぞれの取組を明確にするとともに、関係団体や機関と連携し、相互に協力しつつ、子供の発達段階に応じて取組を進めていくことが重要です。」

「また、変化の激しい社会情勢を踏まえ、子供たち一人一人の読書環境の実態に合わせた支援を充実させていくとともに、時代の変化に合わせた読書方法や資料活用等についても、情報を収集しながらより効果的な方法を模索していきます。」

(修正後)

「そのためには、家庭・地域・図書館・学校等のそれぞれの取組を明確にするとともに、SDGs の「目標 17 : パートナースhip で目標を達成しよう」の理念に基づき、関係団体や機関と連携し、相互に協力しつつ、子供の発達段階に応じて取組を進めていくことが重要です。」

「また読書活動の充実は、すべての SDGs 目標への到達を促すものであり、特に「目標 4 : 質の高い教育をみんなに」や「目標 16 : 平和と公正をすべての人に」の理念に基づき、子供たち一人一人の読書環境の実態に合わせた支援を充実させていきます。」

3 本市の状況（意見数5件）

提 案 2	市の独自性をもった推進計画を作っていくべきだと思う。
----------------------	----------------------------

【市の考え方】盛り込み済

計画案 16 ページから 17 ページ「3 本市の状況」を踏まえ、浜松市の実態に合わせた推進計画を策定しています。

要 望 1	図書館補助員の働きかけで、保護者を巻き込んだ活動が増え、子供が卒業後も地域住民として活動を続けているという話を聞く。学校の図書館に補助員が配置され、多くの活動をしていることを広く知らせてほしい。
----------------------	---

【市の考え方】案の修正

ご意見を踏まえ、「3 本市の状況」に（5）「学校図書館補助員の配置」の項目を追加し、取組内容を明記します。

《修正内容》

（修正前）

記載なし

（修正後）

計画案 17 ページに以下のとおり記載

（5）学校図書館補助員の配置

浜松市は、公立小・中学校に学校図書館補助員を 100%配置し、子供たちの学びの支援や図書室の環境整備等を行っています。

また、中央図書館内に設置している「学校図書館支援センター」と連携を図り、連絡会や研修会等も行っています。

質 問 4	学校図書館補助員について、勤務時間数に制限があると聞いたが、子供が在籍している間は常駐していただけるのかを知りたい。
----------------------	--

【市の考え方】その他

学校図書館補助員の勤務時間は 1 日 3 時間程度、週 12 時間以内となっています。限られた業務時間の中で、計画的に子供たちの学びの支援と環境づくりに取り組んでいます。

質 問 5	学校図書館補助員は、学校の先生が兼務しているのか、図書室専門職なのか。また、校長先生の監督下にあるのか教えて欲しい。
----------------------	--

【市の考え方】その他

学校図書館補助員は、平成 19 年度から公立小・中学校の全校に配置され、学校長の監督下にあります。教員ではなく、学校図書館専属の職員として採用されています。

提案 3	学校図書館補助員と連携を図り、市立図書館の情報や魅力を伝えたら、もっと利用頻度が上がるのではないか。
-----------------	--

【市の考え方】今後の参考

中央図書館内にある「学校図書館支援センター」は、学校と市立図書館をつなぐ役割を担い、学校図書館補助員の研修会や連絡会等を行っています。今後も、市立図書館からの魅力発信を含め、さらなる連携を図ってまいります。

第3章 第2次推進計画期間における子供の読書活動の現状と課題

1 子供の読書活動に関する取組の現状（意見数 13 件）

提案 4	助産師として新生児訪問を行う際にブックスタートの説明もしているが、出産後の早い時期は余裕のない人が多い。ブックスタートの案内を、新生児訪問から8か月になるまでの期間にもう1回増やして見たらどうか。
提案 5	開催場所について、子育て支援広場を利用するのはどうか。
提案 6	子育て中の親は、育児用のアプリを多用している。浜松市子育て情報サイト「ぴっぴ」のLINEと連携すれば、より多くの人に伝えられるのではないか。

【市の考え方】今後の参考

令和3年11月より、浜松市子育て世代包括支援センターのLINE公式アカウントにて、7か月の親子を対象に、ブックスタートの案内を配信しています。多くの方にご参加いただけるよう、今後も開催場所や広報について、情報を収集し検討を進めてまいります。

質問 6	計画案22ページの「えほんとわらべうたの会」「おはなし会」の案内ページにQRコードが記されているが、QRコードを開いても中止についての記載しかない。今後QRコードに新たな内容を入れるのか。あるいはQRコードが視覚障害者の皆さんを対象とした音声化のものなのか。
-----------------	---

【市の考え方】その他

QRコードは、図書館ホームページの「えほんとわらべうたの会」「おはなし会」の該当ページのリンク先です。状況に応じて内容は修正されます。

※「QRコード」は、特許庁の登録商標です。

要望 2	「えほんとわらべうたの会」「おはなし会」は非常に良い企画だと思う。乳幼児期における主な取組として、開催数、参加者数、開催場所等も表示していただきたい。
要望 3	「あかちゃんのための絵本講座」は、全1回の講座をどこの図書館で年間何回実施し、参加した人は何人なのか。令和元年度でも2年度でも良いので、事業実績を入れていただきたい。
要望 4	「パパ・ママ絵本講座」は、全3回1クールとしているが、どこの図書館で、年間何回、誰が実施し、参加した人は何人なのか。令和元年度でも2年度でも良いのでの事業実績を入れていただきたい。

【市の考え方】案の修正

ご意見を踏まえ、計画案 22 ページから 23 ページの「乳幼児期における主な取組」の各項目に開催数と参加人数（令和元年度・令和2年度分）を追記します。

《修正内容》

（修正前）

開催数と参加人数の記載なし

（修正後）

各項目に以下のとおり記載

・ブックスタート

令和元年度 開催数 373 回 参加組数 2893 組

令和2年度 開催数 695 回 参加組数 2258 組

・えほんとわらべうたの会

令和元年度 開催数 634 回 参加者数 8629 人

令和2年度 開催数 33 回 参加者数 311 人

・おはなし会

令和元年度 開催数 532 回 参加者数 3914 人

令和2年度 開催数 0 回 参加者数 0 人

・絵本講座

＜あかちゃんのための絵本講座＞（全1回）

令和元年度 開催数 8 回 参加者数 子供：71 人、大人：95 人

令和2年度 開催数 8 回 参加者数 子供：44 人、大人：63 人

＜パパ・ママ絵本講座＞（全3回）

令和元年度 開催数 6 回 参加者数 延べ 39 人

令和2年度 開催数 1 回 参加者数 0 人

・おでかけ絵本講座

令和元年度 開催数 19 回 参加者数 778 人

令和2年度 開催数 4 回 参加者数 48 人

要望 5	計画案 23 ページの「パパ・ママ絵本講座」は「3回連続で参加することで、より深く絵本について知ることができる」と記載されているが、この文面では、主催者の意見なのか参加者の意見なのか理解できない。主催者であれば「より深く絵本について知ることができるよう企画しています」と記載いただくことで事業になじみやすく身近なものとなる。
-----------------	--

【市の考え方】案の修正

ご意見を踏まえ、講座の内容紹介が主催者の視点で書かれていることを明確にするため、以下のとおり修正します。

《修正内容》

(修正前)

3回連続で参加することで、より深く絵本について知ることができる(1回のみ参加も可能)

(修正後)

3回連続講座。連続参加することで、より深く絵本について知ることができる内容としているが、1回のみ参加も可能。

要望 6	子供たちの本の選択を支援するため、各教室へ回せるような図書を渡していただけると良いと思う。学校あるいは図書館補助員等に紹介していただけると、より読書量も上がると思う。
-----------------	---

【市の考え方】盛り込み済

計画案 25 ページ第3章「小学生期における主な取組」に「学習支援パック」の内容を記載しています。今後も、資料充実を図るとともに、学校図書館支援センターだより等で資料の紹介に努め、学校図書館補助員にも紹介していきます。

質問 7	計画案 25 ページの「おでかけ図書館」と 26 ページの「図書館ボランティア」「職場体験」は学校単位での申し込みだと思いが、不登校やホームスクーリングの子が体験できるよう、個人的な応募等は可能か。
-----------------	---

【市の考え方】今後の参考

「おでかけ図書館」と「職場体験」は学校教育の一貫として行っているため、現状では個別の対応はしていませんが、「図書館ボランティア」は個人での申込みが可能です。

なお、「おでかけ図書館」で活用する「調べ学習の手引き」は、市立図書館ホームページで、どなたでも閲覧可能です。

質問 8	計画案 26 ページの中学生・高校生を対象とした「情報活用講座」とはどのような内容か。
-----------------	---

【市の考え方】盛り込み済

大学から講師を招き年2回程度開催しています。中央図書館のレファレンスサービスや郷土資料等、図書館を活用した探究活動で使える情報や魅力を伝えています。

質 問 9	中学生・高校生くらいの家庭ではどのようにして読書に親しんでもらうようにしていくのか。
----------------------	--

【市の考え方】 その他

子供の読書活動は、乳幼児期からの成長を意識したつながりのあるものとして捉えています。家庭においても、中学生・高校生の時期を含め継続した働きかけや環境作りが重要です。質の高い読書活動が展開できるよう、家庭・地域・図書館学校等が連携し、切れ目のない支援充実に努めてまいります。

要 望 7	学校図書館補助員は、必ずしも司書の資格がある方ばかりではない。そのため、研修会があると良い。
----------------------	--

【市の考え方】 盛り込み済

計画案 28 ページ「読書活動の基盤となる取組」に学校図書館補助員研修会について掲載しています。

2 本市の子供の読書活動の現状と課題 （意見数 11 件）

質 問 10	計画案 29 ページの「子ども読書支援ボランティアの育成と活動の充実」の 1 行目「図書館読み聞かせボランティア養成講座」は計画案 28 ページにある「読み聞かせボランティア養成講座【市立図書館講座】」のことか。
-----------------------	--

【市の考え方】 案の修正

ご意見を参考に、計画案 28 ページ「読書活動の基盤となる取組」に記載されている講座の名称を以下のとおり修正します。

《修正内容》

（修正前）

- ・ 読み聞かせボランティア養成講座

（修正後）

- ・ 図書館読み聞かせボランティア養成講座

提 案 7	計画案 34 ページに、地域社会で活動する子ども読書活動支援ボランティアについて「継続的な資質向上に努めます」とあるが、育成するのではなく、既存のボランティア団体と連携してはどうか。また、公的機関としての事業であるため、特定の団体に偏らず多様な地域資源を効率的に活用して、子供読書を推進していく体制が望まれる。計画案の表記として、「育成するとともに、今後におきましては、地域の読書ボランティア団体とも有機的連携を図り、継続的な資質向上に努めていくことを検討します」等を提案する。
----------------------	---

【市の考え方】 案の修正

計画案 34 ページに記載した「子ども読書支援ボランティアの育成と連携」は、

地域で活動を行っている団体からの要望により、市立図書館職員が講座を開催し、資質向上を図る取組のことであります。そのため、計画案 29 ページ「子ども読書支援ボランティアの育成と活動の充実」の表記を以下のとおり修正します。

《修正内容》

(修正前)

- ・子ども読書支援ボランティアの育成と活動の充実

(修正後)

- ・図書館読み聞かせボランティアの育成と活動の充実

要望 8	計画案 29 ページから 33 ページの「現状と課題」において、活動内容と課題を明確化して表現していただけると分かりやすい。課題が明確化されないと、次期計画における対策の妥当性を評価しにくいと思われる。
提案 8	計画案 29 ページの「ブックスタート参加組数」の「参加率はほぼ横ばいだが、6割に留まっているのが現状」とある。参加者がH28年からR2年で半減したことが分かるので、「参加者が減少している」との言及に変更してはどうか。
要望 9	計画案 29 ページ「子ども読書支援ボランティアの育成と活動の充実」に、「高齢化による活動者の減少を見越し」と記載されているが、ボランティアが本の読み聞かせを行うことの意義やそのためのステージが見えず、現場の状況と主催者の講座に対する考え方の乖離が、減少傾向の起因ではないかと思われる。講座そのものの基本的な考え方を改め、かつアップデートを求める。「一部会員の高齢化…検討が求められています」は、現状に対する課題へのアプローチが希薄でもう少し踏み込んだ表現の検討願いたい。

【市の考え方】案の修正

ご意見を踏まえ、以下のとおり計画案を修正します。

《修正内容》

(修正前)

計画案 29 ページから 33 ページの記載に「現状」と「課題」の区別なし

(修正後)

それぞれの取組について「現状」と「課題」を区別、一部加筆・修正

計画案 29 ページ

- ・中学生、高校生の市立図書館の利用

【現状】

平成 29 年度より中学生の市立図書館利用者登録率は 30% 台、高校生は 20% 台となっており、第 2 次計画期間の最終目標値（中学生 70%、高校生 60%）より大きく下回る結果となりました。学習をする場所として図書館を利用する生徒が多く見られます。

【課題】

レファレンスサービス等の機能を活用した、図書館利用の周知が必要です。

- ・ブックスタート参加組数

【現状】

平成 28 年度より参加組数は、毎年度減少傾向にあります。

【課題】

参加者の減少にともない、開催方法やPR方法の検討が必要です。

- ・各種絵本講座の開催

【現状】

図書館サービスの多様化に伴い、平成 30 年度に講座の実施回数を減らしたことで、参加数が大きく落ち込みました。

【課題】

効果的な企画、参加しやすい開催方法の工夫、担当職員の育成及び資質向上が急がれます。

- ・図書館読み聞かせボランティアの育成と活動の充実

【現状】

「図書館読み聞かせボランティア養成講座」の修了者は、平成 28 年度以降、受講定員 30 人に対しておおむね 20 人台となっています。

【課題】

社会情勢の変化に伴う活動者の減少を見越し、新規会員育成を継続するとともに、新しい生活様式に即した活動についての検討が求められています。

計画案 30 ページ

- ・読書バリアフリーに向けた取組

【現状】

外国語を母語とする子供を主な対象とした、「いろいろな国のことばのおはなし会」は、開始した平成 27 年度以降、参加が減少しています。

また、特別支援学校への「おでかけおはなし会」は、平成 28 年度実績と比較すると、訪問回数、参加数とも減少傾向が見られ、特に令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症に対する予防措置として、学校からの希望が大きく減ることとなりました。

【課題】

浜松市の外国籍の子供が多い地域性や発達支援学級等の増加に鑑み、取組内容の検討が必要です。今後は、現場の希望を汲み取り、効果的な読書活動支援の改善が求められています。

- ・調べ学習支援の取組

【現状】

平成 21 年度から始まった「浜松市調べ学習コンクール」は、年々応募数が増加し、作品の質も向上しています。コロナ禍に見舞われた令和 2 年度は応募数が減少したものの、魅力的な作品が集まりました。併せて開催している「調べ学習

講座」は、開催方法の工夫によって、多くの児童が参加できる機会を提供できています。

【課題】

情報化社会で必要とされる資質・能力の視点からも内容を検討し、講座内容のさらなる改善が求められています。

計画案 31 ページから 33 ページ

(2) アンケート調査結果に見る本市の子供読書活動の現状と課題

・「浜松市広聴モニターアンケート調査」による現状と課題

【現状】

子供（0歳～18歳）にとっての読書や本の読み聞かせの有用性については、広く周知されていることを示す結果となりました。読書が子供の成長、発達にとって必要である理由として「文章や言葉に親しむことで、読解力や表現力を育む」を選ぶ人が最も多く、次いで「様々な作品に親しむことで、思考力や想像力を育むことができる」「知的好奇心を育み、新たな知識を獲得することができる」となりました。

【課題】

近年の子供たちの読書傾向として「以前に比べ読書に親しむことが減っている」と感じる人の割合は、約6割となっています。

・「浜松市『ブックスタート』についてのアンケート」による現状と課題

【現状】

平成19年度から市内の図書館やショッピングセンターで実施してきたブックスタートは、今回のアンケート調査で「参加した」と回答した割合は6割でした。参加者のその後の状況として「参加以降、自宅での読み聞かせやわらべうた遊びが増えた」と回答した割合は8割以上、「ブックスタートの配布物（絵本、リーフレット、おはなし会PRチラシ等）を活用している」と回答した割合は9割近くという結果となり、この取組が乳幼児とその保護者にとって有意義なものであることが分かりました。

【課題】

乳幼児期から本を手渡すきっかけ作りとなるブックスタートへの参加を働きかけるとともに、参加しやすい時間帯や会場などの検討を行っていくことが必要です。

・「浜松市立図書館多文化サービスについてのアンケート」による現状と課題

【現状】

外国人市民を対象とした多文化サービスについてのアンケート調査では、子供に対して定期的に自宅で読み聞かせを行っているという回答した割合は8割を超え、内訳は「週に2、3回」(31.9%)、「月に2、3回」(24.6%)、「ほぼ毎日」(20.3%)、「週に1回」(11.6%)という結果でした。子供の本の入手先は「学校で借りる」が最も多く(28.5%)、次いで「本屋で買う」(23.6%)、「図書館で借りる」(15.8%)となっており、外国人市民が子供の本のニーズを満たす上で、学校が重要な位置を占めることがうかがえる結果となりました。外国語資料や日本語習得に資する資料の整備が、特に外国人市民の多く住む地区の学校に望まれます。

【課題】

読書に対する一定の関心が認められる一方で、アンケート回答者のうちブックスタートへの参加は 17%程度に留まりました。不参加の要因として「ブックスタート自体を知らない」「時間がない」「会場の場所がわからない」といった理由が多く挙げられており、外国人市民を対象とした効果的なPRの必要性を示す結果となっています。

- ・「浜松市立図書館 特別な支援を要する子供たちの読書活動についての調査」による現状と課題

【現状】

市内の特別支援学校6校の教職員を対象にアンケート調査を実施しました。その中で「子供の成長、発達にとって、読書が必要か」の設問に対し「とても思う」「ある程度思う」が合わせて98%を超えました。通常の形態での読書が可能な子供と同様、心身に障がいをもつ子供にとって、読書は人間としての成長に必要なものであることを示す結果となっています。読書が必要だと思う理由についても、前述の「浜松市広聴モニターアンケート調査」の回答と同様、「文章や言葉に親しむことで、読解力や表現力を育むことができる」「様々な作品に親しむことで思考力や想像力を育むことができる」「多方面への知的好奇心を育み、新たな知識を獲得することができる」が多く選ばれています。

【課題】

「現在の読書指導環境に満足しているか」の設問に対して「不満」（「どちらかと言えば不満」含む）と回答した割合は3割以下でした。不満の理由として「蔵書が少ない」「古いものが多い」「読書に親しむ時間的余裕が無い」「生徒の状況、ニーズに応じた各種ツールの充実が必要」「読書のための環境整備を望む」といった読書指導に必要な資料・時間・環境の確保についての意見が多くありました。また、「発達年齢（社会年齢や生活年齢）に見合った本の確保」「読書指導の仕方がわからない」「本についての知識が豊富な司書教諭に相談をしたい」等、子供の本や読書指導について情報を必要とする声が挙がり、対応策の検討が必要です。

質問 11	中高生の利用登録率が低いということについて、中高生への働きかけは行っているか。
----------	---

【市の考え方】盛り込み済

中高生が図書館への理解を深め身近に感じることで利用につなげられるよう、計画案26ページに記載のとおり、図書館ボランティアや職場体験習の受入れを行っています。さらに、昨年度より「情報活用講座」を開催し、図書館を活用した探究活動の魅力を伝える場を設けています。

質問 12	ブックスタートの参加が6割程度にとどまっているが、参加のパーセンテージを上げる努力をどのようにされるか。
----------	--

【市の考え方】その他

より参加しやすい開催場所や開催方法の検討を行うとともに、ブックスタートの取組をさらに周知するための広報活動に取り組んでまいります。

質問 13	就学前や小学生の登録率が下がっているのはなぜか。
------------------	--------------------------

【市の考え方】その他

令和元年度末から令和2年度については、新型コロナウイルス感染拡大防止のための制限等が、来館者及び登録率減少の一因であると考えています。

質問 14	計画案 29 ページ「子ども読書支援ボランティアの育成と活動について」の「新しい生活様式に即した活動」とはどのようなことか。また、その様式と子供の読書とどのような関係があるのか。
------------------	---

【市の考え方】その他

「新しい生活様式に即した活動」とは、密集や混雑を避けるため参加人数制限を設けるなど、感染対策を行った環境で開催する「ブックスタート」や「おはなし会」等の準備や実施のことです。子供の読書を支援するボランティアの活動環境を安心安全なものにする取組です。

要望 10	計画案 30 ページに「いろいろな国のことばのおはなし会」に写真を載せていただきたい。また、文章では「いろいろな国のことばのおはなし会」から説明があるのに対し、グラフは「特別な支援を要する子どもの読書活動支援」「いろいろな国のことばのおはなし会」の順番になっているので、文章に合わせてグラフの順番を修正してほしい。
------------------	---

【市の考え方】案の修正

ご意見を踏まえ、以下のとおりグラフの順番を修正し、写真を掲載します。

《修正内容》

(修正前)

- ・グラフの並び順：「特別な支援を要する子どもの読書活動支援」→「いろいろな国のことばのおはなし会」
- ・「いろいろな国のことばのおはなし会」の写真掲載無し

(修正後)

- ・グラフの並び順：「いろいろな国のことばのおはなし会」→「特別な支援を要する子どもの読書活動支援」
- ・「いろいろな国のことばのおはなし会」の写真を掲載

質問 15	計画案 31 ページ「浜松市公聴モニターアンケート調査」の「以前に比べ読書に親しむことが減っている」と感じる人の割合が6割を超えている現状に同感である。学校の学習指導要領では、読書についてどのように明記されているのか。
------------------	---

【市の考え方】その他

現行の学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が重要な視点の一つとなっています。その中で、学校図書館の計画的な活用や、図書館・博物館等の施設の活用による学習活動の充実を推進する事が求められています。さらには「本などを種類や配置、探し方について指導するなど、児童が必要な本を選ぶことができるよう配慮すること」についても明記されています。

3 今後の方向性 (意見数 4 件)

要望 11	計画案に「目指す子供像」や「本の大切さ」については書かれているが、市・図書館・学校側の人材育成についての記述が少ないのではないか。また、ボランティアの育成も大事だと思うので、人材育成に取り組んでほしい。
要望 12	子供が図書館で資料を探すとき、もっと気軽に相談できるような体制作りのために、人材育成に取り組んでほしい。

【市の考え方】案の修正

ご意見を踏まえ、次のとおり計画案の加筆・修正をします。

《修正内容》

(修正前) 計画案 34 ページ

(2) 子ども読書支援ボランティアの育成と連携

本の世界の楽しさに触れ、生活を豊かなものにする手段として自ら本を手にするようになるには、読み聞かせなど周囲の大人からの働きかけが大切です。そのためには、家庭のほかに、子供に対して様々な本と出合わせてくれる大人の存在が大きな意味を持ちます。地域社会で活動する子ども読書支援ボランティアを、図書館や静岡県子ども読書アドバイザーの連携の元で育成するとともに、継続的な資質向上に努めます。子供を取り巻く環境の多様化を考慮したきめ細かな活動を行うために、高い意識と豊かな知識を持ったボランティアとの連携を充実させていきます。

(修正後)

(2) 子供読書支援に係る人材育成と連携

本の世界の楽しさに触れ、生活を豊かなものにする手段として自ら本を手にするようになるには、読み聞かせなど周囲の大人からの働きかけが大切です。そのためには、家庭のほかに、子供に対して様々な本と出合わせてくれる大人の存在が大きな意味をもちます。

市立図書館及び学校では、職員の研修体制を整えるとともに外部研修を積極的に利用し、子供たちの学びや成長に対応できる、高い意識と豊かな知識をもった人材育成に努めていきます。また、地域社会で活動する子ども読書支援ボランティアを、図書館や静岡県子ども読書アドバイザーの連携の元で育成することで、継続的な資質向上に努めます。

質問 16	計画案 35 ページにある「中山間地域など遠隔地に住む子供への読書活動支援」では、水窪地域に「ぶっくる」という自動車文庫が巡回している。この事業は来年以降も継続してもらえるのか。
要望 13	少子化が進む地域では「ぶっくる」の本も非常に有効に利用しているので、今後も継続をお願いしたい。

【市の考え方】今後の参考

今後も継続を予定しています。ただし、配本所につきましては、ご要望等により変更となる可能性があります。

第4章 浜松市の子供の読書活動の推進方策

2 浜松市の目指す読書活動 ～構想図～ (意見数2件)

要望 14	子供たちが、ゲームやスマホを活用している場面が多い。「目指す子供像」に近づくために、保護者・学校・地域・子供たちの筋道を示していただくと有り難い。
----------	---

【市の考え方】盛り込み済

計画案 40 ページから 47 ページ、第4章の3「4つの目標と取組」に記載した「家庭」「地域」「図書館」「学校等」の取組が、方策となります。

質問 17	「目指す子供像」に向けて図書館としてできること、図書館としての限界を教えてください。
----------	--

【市の考え方】その他

子供たちの読書活動を間接的に支える取組をとおして、子供の成長を支援することが、図書館としての役割であると考えています。

3 4つの目標と取組 (意見数7件)

要望 15	計画案 39 ページの「目指す子供像」という表現について違和感があるため、検討してほしい。
----------	---

【市の考え方】案の修正

ご意見を踏まえ、本計画の上位計画である「第3次浜松市教育総合計画『はままつ人づくり未来プラン』」の表記に合わせ、次のとおり表記を加筆、修正します。

《修正箇所》

計画案 7 ページ、38 ページ、39 ページ、40 ページ、42 ページ、44 ページ、46 ページ、51 ページ

(修正前)

目指す子供像

(修正後)

目指す子供の姿

《修正内容》計画案 39 ページ

(修正前)

子どもたちにおける読書活動の意義や目的を十分考慮した上で、本市では、第1次計画から引き続き読書に関して次に示すような「目指す子供像」を掲げ、子どもの育成を目指します。

(修正後)

子供たちにおける読書活動の意義や目的を十分考慮した上で、本市では、第1次計画から引き続き、次に示すような子供の姿を思い描き、読書環境のさらなる充実により、読書を通じた「生きる力」の育成を推進していきます。

提案 9	計画案 40 ページ「豊かな言葉をもつ子供」の実現に向けた取組のうち、家庭での取組事例が講座等への参加の事例のみになっている。参加できる人数は限定的なものであり、時間的余裕がなければ不可能。家庭で実現可能な事例を入れると良い。
-----------------	---

【市の考え方】盛り込み済

「豊かな言葉をもつ子供」実現のための「家庭」の取組として、実現しやすいと思われる「保護者による日常的な絵本や本の読み聞かせ」を取り入れています。

質問 18	現行の推進計画（第2次推進計画）における、令和3年度の目標値を教えてください。また、第4章3に示した指標について、現段階においてどこまで達成されているのかということを知りたい。
------------------	--

【市の考え方】その他

計画案 40 ページから 47 ページの「4つの目標と取組」に示した指標については、第3次推進計画策定に向けて新たに加えた項目もあるため、目標値及び達成状況のすべてをお示しすることはできません。第2次推進計画における目標については、現行の推進計画に掲載しています。

質問 19	学校に推薦図書はあるのか。
------------------	---------------

【市の考え方】盛り込み済

浜松市内の公立小・中学校及び高等学校の必読図書の設置割合については、計画案 45 ページ「本を選ぶ力を身に付けた子供」の指標「学校等の必読図書、推薦図書の設置割合」において、設置校の割合を掲載しています。

質問 20	読書離れの原因の一つは、スマホやゲーム等に費やす時間の増加であると考えます。この計画書を作る段階においてスマホの使用状況やICTの活用についての検討はされたか。
------------------	--

【市の考え方】今後の参考

ICTの活用など時代の変化に合わせた読書方法や資料活用等については、情報を収集しながら、中間年の見直しに向けてより効果的な方法を模索していきます。

提案 10	小学生くらいまでだと、図書館へ一人で行くことがなかなかできないと感じている。どうしたら子供がもっと読書に親しめるかと考えた時、やはり「学校図書館」の充実を図ることが大切ではないか。
------------------	--

提案 11	学校図書館を、リラックスできて図書館に行きたくするような居場所になるようにしてほしい。長く居る学校の中で、子供が本を好きになるということを考えてほしい。
------------------	--

【市の考え方】今後の参考

学校図書館は、図書主任および学校図書館補助員が中心となり運営し、読書指導の年間指導計画を作成して読書推進に努めています。学校図書館には、様々な目的で子供たちが来館するため、本に親しめる場所としての環境整備や資料充実に、今後も努めてまいります。

4 一人一人の読書環境を支える取組 (意見数3件)

質問 21	発達に障がいをもつ子供の保護者から「読書に対して興味はあるが、文字を読むことに関して色々な症状があり、困難を感じる」という話を聞く。読むことに困難を抱える子に対しての特別な取組などはしているのか。
質問 22	読むことに困難を抱える子供たちへの支援を行っているのであれば、その取組内容について周知しているのか知りたい。

【市の考え方】 今後の参考

市立図書館では、やさしくて読みやすい「Lブック」や、デジタル録音図書「マルチメディアデージー図書」などを所蔵しています。また昨年度より、読書バリアフリー機器や読書バリアフリー資料の展示会と体験会を城北図書館、中央図書館にて開催し周知を図っています。今後も、図書館だよりやホームページ等に加え、様々な機会を捉えて広報に努めます。

質問 23	計画案 49 ページに「外国にルーツをもつ子供たち」という表記があるが、具体的にはどのような取組を行っているのか。
----------	---

【市の考え方】 盛り込み済

多言語に対応した図書資料（絵本・児童書等）の充実や、計画案 40 ページや 48 ページに記載した「外国語の通訳付きブックスタート」、「いろいろな国のことばのおはなし会」等を開催しています。

参考資料 (意見数2件)

質問 24	計画案 54 ページの参考資料「統計」の「図書標準」について説明をお願いする。また、「図書標準」は、生徒数に応じた蔵書冊数の目安という一項目だけなのかについても知りたい。
----------	---

【市の考え方】 案の修正

ご意見を踏まえ、次のとおり計画案に「学校図書館図書標準」の注釈を加筆します。

《修正内容》

(修正前)

注釈なし

(修正後)

「学校図書館図書標準」

公立義務教育諸学校の学校図書館に整備すべき蔵書の標準を、学級数に応じて定めたもの。

質問 25	計画案 54 ページ「参考資料」に学校図書館の「貸出冊数」等のデータがあるが、もう少し細分化したデータはないのか。
------------------	---

【市の考え方】 その他

公立の小・中学校には、学校図書館の蔵書や貸出等を管理するシステムが導入され、一人一人の記録があります。このデータは、子供の成長を支援する目的で設定されているため、公開することはありません。

その他 （意見数 13 件）

要望 16	子供たちの読みたい本・興味のある本を調査し、読みたい本を精査して図書館に置くことを希望する。漫画で紹介されている歴史や物語の本なども読みやすいと思う。漫画の本も図書館に入れてほしい。
提案 12	子供たちが読みたい本と、図書館にある本がマッチしていないのが現実的にある。「こういう図書を読みなさい」ではなく、子供たちが読みたい本を入れたらどうかと思うがいかがか。

【市の考え方】 今後の参考

「蔵書へのご提案」制度を設け、子供も含めた市民から広く蔵書についての希望を受け付けています。漫画については、個々の資料の耐久性や内容・描写などを確認の上、慎重に受入れを判断します。また、選書にあたっては、「浜松市立図書館資料収集に関わる基準」に基づき検討を行っています。今後も、子供たちが読みたい資料についても情報を収集し、資料充実に努めてまいります。

要望 17	昨今、本への親しみが薄れている。図書館の資料室（郷土資料室）には非常にいい本がたくさんある。貴重な資料も多くあり、そのような図書資料の扱い方なども指導して頂きたい。
------------------	--

【市の考え方】 今後の参考

郷土資料室では、浜松市を中心に静岡県・三遠南信の資料を収集し、調査・研究等にご活用いただいています。子供向けにも、目的に応じて資料の紹介を行っています。今後も、多くの子供たちが郷土に愛着をもち、資料を活用できるよう努めます。

要望 18	ゲームなどに子供たちの興味が向かっているが、子供たちが読書に関わっていけるような環境作りが大切ではないか。読書に興味をもつ企画を是非検討してもらいたい。
質問 26	コロナ禍で外出できない状況への対応等、今後の読書活動に盛り込まれていることはあるか。

【市の考え方】 今後の参考

各市立図書館では、展示やイベント、講座など、子供たちに読書の楽しさを伝える取組を、年間をとおして行っています。また、コロナ禍における講座やイベント開催では、ゆとりある定員に設定し、開催数を増やして対応しています。感染状況の変化に応じて、今後も魅力ある取組を進めてまいります。

提 案 13	学校では朝読書の時間が減ってきていると聞いた。長期の休みなどで、学校図書館が開放されると本に親しめていいのではないか。
-----------------------	---

【市の考え方】今後の参考

各学校の教育課程により、朝読書の時間や取組、また、学校図書館の開放を含む長期休業中の業務内容等が定められています。本に親しむ場の設定については、子供たちの実態に応じて取組を充実させていきます。

要 望 19	市立図書館に新しい本が増えないのは、子供たちに図書館の魅力が伝わりにくいと思う。新しい本をもっと増やしてほしい。
-----------------------	--

【市の考え方】今後の参考

できる限り新しい本が増えるよう、資料充実に努めます。

提 案 14	コロナにより、学校では「黙食」となっている。そういう時に、給食中の放送で読み聞かせを実施し、本の紹介や読み聞かせを行ったらどうか。
-----------------------	---

【市の考え方】今後の参考

読み聞かせは、学校教育の様々な場面で取り入れられています。給食指導との関連を踏まえ、放送等での読み聞かせも一つの案として情報共有していきたいと思えます。

要 望 20	市立図書館のリノベーションで、子供たちにとって居心地の良い環境作りに取り組んでほしい。
-----------------------	---

【市の考え方】今後の参考

一部の市立図書館の老朽化が進み、大規模または小規模の改修を順次行っています。改修の際には、少しでも利便性が高く、居心地の良い空間を目指し改善を進めています。また、ハード面だけでなく、図書館員の接遇も含めて居心地の良い空間作りに努めます。

要 望 21	学校図書館員の配置により、学校図書館は充実していると感じる。他にも、ゆったり本を読めるようなスペースを設け、子供たちがもっと楽しく安心して読書に親しめる環境を設けてほしい。
-----------------------	--

【市の考え方】今後の参考

市立図書館をはじめ、浜松市の文化施設や協働センターには、図書スペースを設けている場所があります。今後も、様々なニーズに対応できる環境づくりに努めてまいります。

要望 22	幼少期より本に接する機会を増やすため、市立図書館の貸出期間2週間を、できればもう少し長く設定できるとありがたい。
------------------	--

【市の考え方】その他

次に予約の方がいなければ、電話または市立図書館窓口で1回貸出期間延長ができます。

提案 15	子供たちに本の楽しさを知ってもらうために、子供たちが好きな本を選んでもらい、本への入門の入門から始めてはどうか。本のプレゼント記念日などを企画してみたいか。読書の習慣を日常生活の中に位置付ける必要があると考える。
------------------	--

【市の考え方】今後の参考

幼い頃から本の楽しさを味わってもらい、読書の習慣が日常生活に根付くよう、ブックスタートや絵本講座等で子供や保護者が本を手取る機会を提供していきます。その他にも年間をとおして、様々な本に出合うための展示やイベントなど、読書の楽しさを発信する企画を検討します。

要望 23	子供たちの読書の機会を増やすため、小学校入学時のお祝いとして利用者カードの配布を希望。その際、有効期限を5年でなく6年まで延長すれば、小学生の間利用可能になり読書への機会となる。
------------------	---

【市の考え方】その他

利用者カードは、本人（小学生以下は保護者可）からの申し出を受けて作成しています。小学校入学前に既にカードを作成済の子もいることから、入学時の一斉配布や有効期限の変更は、二重登録などの混乱の原因となることが予想されます。

なお、図書館利用および読書の機会を作るため、年度当初に新入学児童・生徒に利用者カードの申込書としても利用できるチラシを配布しています。